

平成 27 年 10 月 1 日

D F 国内旅行同好会

D F 会員各位

## 「DF 会員が選ぶ『日本 100 名所』（仮称）」執筆者の募集（ご案内）

### 1. 執筆者の募集

- ・国内旅行同好会が中心となって「日本 100 名所（仮称）」なる書物の出版計画を進めています。8 月 6 日 10 日の両日、D F 会員の皆様にも執筆者（共著者）になっていただきたく、出版計画説明会を開催しました。多くの方からのご賛同がありましたが、以下の県については、現状、執筆される方がいません。是非とも共著者として名を連ねていただけませんか。

ご当地について、「観光大使である」「故郷である、出身地である」「事業所があってその地で生活した」「かつて訪れたことあり、印象深い場所」などなど、ご縁や貴重な体験をもとに、独自の切り口で紹介をお願いします。

まず、全国 100 エリアを確定することが、この計画の第一歩です。

- ・執筆者が未定の県（各県 2 エリアを取り上げることにしています。ここでは 2 エリアについての執筆者が必要です）。

石川、滋賀、徳島、鳥取、福岡、長崎（6 県）

- ・1 エリアについての執筆者が必要な県（1 エリアについては執筆者あり）。

山形、栃木、三重、岐阜、大阪（5 県）

### 2. 本計画の経緯

- ・この出版計画に至る経緯について少し説明します。

2 年前の平成 25 年（2013）には安倍政権による経済政策「アベノミクス」による円安効果、東南アジア向けに観光ビザ免除などから訪日観光客が増え、その数は、1125 万人になりました。また、2020 年の東京五輪の招致も決まり、観光立国が国策の一つとなりました。

このような背景のもと、横井時久さんからの発案で、観光立国研究会が発足しました。その趣旨は、会員の中には通訳の資格を持った人もいて、これを活かそう、企業見学を観光メニューに育てよう、語学力を生かして旅行者向けのメディア作戦の手伝いをしようなど、来日外国人の増加や便宜向上を図っていこうというものでした。

- ・観光メニューの開発を議論する過程で、有名観光地ではないが「これが日本だ」と言えるいいところがある。ならば、一度実地に体験してみようということから「国内旅行同好会」が生まれました。

また、650 年の歴史がある能・狂言という芸能があり、ユネスコの世界文化遺産に登

録されています。ロンドン、ニューヨークでオペラ、ミュージカルを楽しむような形で、能・狂言を楽しんでもらうにはどうしたらいいか、と検討を始める中で、まず、能・狂言を体験してみようと、「能・狂言同好会」が発足しました。

「国内旅行同好会」も「能・狂言同好会」も、同好の士の集まりですが、「観光立国研究会」の下部組織のような位置づけにあります。

- ・観光立国研究会の活動は、平成 27 年 2 月 17 日付「観光立国と地方創生に関わる提言」（15 ページ 13,000 字：内容省略）をまとめ、観光庁に提言しています。

この提言に対して、7 月 13 日、観光課長から「観光立国実現に向けたアクション・プログラム 2015」（平成 27 年 6 月観光立国推進閣僚会議資料）に沿って、当方からの提言がどのような位置づけにあるのか、その状況報告がありました。

- ・観光立国研究会の活動メニューの一つに『日本 100 名所』の出版計画があります。廣瀬駒雄さんからの発案です。実業界で見識を拡げてきた DF メンバーによる独自の切り口で、全国 100 地域の名所を取り上げ（2 件／県ベース）、旅行案内冊子作ろうというものです。2 月の提言書では、アイデア段階でしたが、以降、具体化のための検討を進め、今に至っています。

### 3. 推進体制

- ・「日本 100 名所」出版計画の主宰者は、廣瀬駒雄さんです。
- ・編集委員は、廣瀬駒雄さんに加え、角谷充弘、小林慎一郎、嶋矢志郎、高木健次、萩野弘二、萩原秀留、藤田卓、松本一紀、横井時久の各氏です。  
出版企画書の作成・提出、企画書の協議などは、編集委員が行ないます。
- ・本出版は自費出版ではなく、商業出版を目論んでおり、嶋矢志郎さんが日本経済新聞出版社との橋渡しをしています。  
(8 月 6 日 10 日の説明会資料も参考にしてください)
- ・執筆者は全員、共著者になります。

### 4. スケジュール

- ・まず、全国 100 エリアを確定し、原稿を書くこと。  
別紙「執筆要領」を参考にしてください。原稿の形式を統一します。
- ・凡そのスケジュールは  
平成 27 年 12 月 目途 原稿作成  
平成 28 年 2（～3 月） 割り付け・ゲラ、著者チェック  
平成 28 年 5（～6 月） レイアウト作業  
平成 28 年 7 月 店頭販売

## 5. その他

- ・『日本 100 名所』（仮称）を出版しようというベクトルは決まっています。
- ・「経費の負担」「書名」「本のスタイル」「(グループ) 著者名」「広告掲載の有無」「買取保証部数」などは未確定で、今後の事態の進行に従って決めていきます。

## 6. (ご参考) 執筆者の負担は次のとおりです。

- ・記事を書くための取材費は、執筆者の自己負担です。
- ・日経出版社は初版で赤字を出さぬよう、購買見込が揃えばなおいいとしており、出版計画が進展するに従って、買取保証部数の提示の可能性があります。その数字は現時点では分かりません。しかし、仮に、1 万部発行、内 5 千部の買取保証を想定した場合、どのような事態になるのか、8 月 6・10 日の出版計画説明会での資料を、ご参考までに以下に引用します。

### (A シナリオ)

1 エリア 50 部 (10 の基本データ先×5 部) の引受 (購入) が実現できれば、  
50 部/エリア×100 エリア=5,000 部 となり、買取保証部数はクリアする。  
執筆者の負担はない (むしろ定価の 10% の印税収入あり)。

### (B シナリオ)

買取保証部数 5,000 部についての負担は、相手 (書物の購入者) があることなので、予断を許さないが、基本データ先で上記 A シナリオの「半分」の引受の実現を見込む。  
従って、残余の「半分」、1 エリア 25 部 (10 基本データ先×2.5 部) について、執筆者の負担が生じる可能性がある。

執筆者各位には、この点のご了解をお願いしたい。

執筆者の負担：定価 (1,300 円) ×8 掛け×25 部=26,000 円

収益 (印税)：定価 (1,300 円) ×10%×100 部=13,000 円 (H27.7.14 廣瀬メモ)

差引執筆者の実負担：13,000 円/エリア

- ・執筆者は、全体で 40 名を想定している (出来れば 50 名の執筆者が望ましい)。  
40 名×2.5 エリア/名=100 名所 (執筆者一人が 2.5 エリアの担当を想定)。  
2.5 エリア/名を予定すると、  
計算上、13,000 円/エリア×2.5=32,500 円の負担が生じる可能性がある。  
(2 エリアを担当する場合は、13,000 円/エリア×2=26,000 円/名)。  
(3 エリアを担当する場合は、13,000 円/エリア×3=39,000 円/名)。

以 上

(平成 27 年 10 月 1 日：高木健次作成)